

## ●鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第3回）協働・拡張ワークショップを開催しました

鎌倉市は平成28年度末までの本庁舎整備方針の策定をめざし、取組を進めています。

### ■鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第3回）協働・拡張ワークショップ

市民の方々の視点やアイデアを本庁舎整備方針に取り入れるために、市民対話（全5回開催予定）の取組を進めており、第3回の市民対話として、全5回を通して参加する市民対話メンバーのほか、公募の市民及び神奈川大学建築学科の学生が参加した協働・拡張ワークショップを10月10日に開催しましたので、その概要をお知らせします。

### ■開催概要

協働・拡張ワークショップは午前の部、午後の部に分け、それぞれ異なるテーマで、本庁舎のあり方について対話を実施しました。

ワークショップには、これまでの市民対話から得られた意見やアイデアをもとにした「対話カード」が用意され、少人数のグループに分かれた参加者は、カードを使いながらテーマに沿った対話を行いました。その後、各テーブルの対話の内容をそれぞれ代表者が発表し、全体対話へと移行しました。全体を通して、未来の本庁舎に求める像や、現在の本庁舎のある場所にあってほしい機能などについて、多様なアイデアや視点が共有されました。

日 時：	平成28年10月10日（月・祝）
会 場：	鎌倉市役所 第3分庁舎1階 講堂
参加者：	計45名
午前の部	23名（市民対話メンバー7名、公募市民16名） （参加者居住地域 鎌倉9名、腰越1名、深沢4名、大船8名、玉縄1名）
午後の部	34名（市民対話メンバー7名、公募市民15名、神奈川大学学生12名） （参加者居住地域 鎌倉5名、腰越3名、深沢6名、大船4名、玉縄4名、市外12名）

テーマ及び当日の流れ：

午前の部	『未来の本庁舎にあなたが求めるものは何ですか？』 対話1 「現市役所（本庁舎）に関する印象」 対話2 「現市役所（本庁舎）に関する印象(2)」 対話3 「新しい役割の定義」 全体対話 グループ発表後に意見交換
午後の部	『現在の本庁舎の場所にあつたらいいと思うものは何ですか？』 対話1 「本庁舎の場所についての印象」 対話2 「あつたらいいもの、起きてほしいこと」 対話3 「あなたならどんな施設をつくれますか」 全体対話 グループ発表後に意見交換

## ■午前の部

午前の部では「未来の本庁舎にあなたが求めるものは何ですか？」というテーマに基づいて、対話が行われました。午前の部で出された主な意見やアイデアは以下のとおりです。

### 1. 本庁舎のあり方について

#### 本庁舎の機能は分散してよい

- ・ 「小規模な駅近の本部と大規模な総合分庁舎の様な棲み分けがあっても良い」
- ・ 「市民生活のための場と行政機能の場を分ければ良い」

#### 現在の場所は行政機能よりも市民のために

- ・ 「何か困ったときの駆け込み寺」
- ・ 「人々が立ち寄れる場」
- ・ 「市民用スペースの併設など、総合的な機能」

#### 市民意識が発露する場

- ・ 「アクティブに市民の動きがわかる、感じられるような場所」
- ・ 「市民生活のありのままを発信する場所」

#### 市役所は鎌倉市・市民のシンボル

- ・ 「緑を活かし、市民が気軽に集まりたくなるような場所」
- ・ 「来賓をもてなす『おもてなし機能』は鎌倉の中心にあったほうが良い」
- ・ 「集まって楽しいところになれば文化は生まれない」

#### 執務環境も大切

- ・ 「皆がそこで働きたいと思う魅力的な職場であってほしい」
- ・ 「整然としたオフィス環境」

#### 議会の場所については意見が分かれた

- ・ 「議会が今の場所にある必要はないのでは」
- ・ 「議会は鎌倉の中心にあってほしい」



カードを使って対話開始



グループごとに対話



活発な対話が展開

### 2. 防災性について

#### 災害に強いことが重要

- ・ 「災害に強い場所に建てるべき」
- ・ 「災害発生時の司令塔・対策本部として機能しないとイケない」

## 守るのは市民だけでなく観光客も

- ・ 「災害時の拠点機能を担う必要」
- ・ 「観光客をどう守るかの視点も大切」

### 3. 建物のデザイン

#### 文化・歴史・景観に配慮した建物のデザイン

- ・ 「古都鎌倉にふさわしく、景観にも配慮」
- ・ 「緑や自然との調和」



グループごとに発表



意見をまとめたシート



発表後、全体で意見交換

### ■午後の部

午後の部では「現在の本庁舎の場所にあつたらいいと思うものは何ですか？」というテーマに基づき対話が行われました。午後の部には、来訪者の視点からの意見も取り入れていくことを目的に、神奈川大学建築学科の学生12名にも参加いただきました。午後の部で出された主な意見やアイデアは以下のとおりです。

#### 1. 市民が集い、交流する場

##### 人が集まる機能：市民が集う

- ・ 「市民集会用のカフェ」
- ・ 「歴史や文化を学ぶ博物館、映画館」
- ・ 「若者のちょっとした遊び場（3 on 3 ができるバスケットコートなど）」

##### 自由に使えるオープンスペース

- ・ 「公園やオープンスペース、広場など『どうぞ自由にお使いください』という場」
- ・ 「お金を使わなくても、ちょっと休める、座れる、買ったものを食べられる」
- ・ 「日陰ができるように、配置を工夫する」

#### 2. 地域に開かれ、暮らしが楽しくなる場所

##### 「鎌倉留学」：子どもからお年寄りまでが気軽に学びに訪れる

- ・ 「現中央図書館、御成小学校、現本庁舎をひとつの大きなエリアとして機能を再編。子どもから大人までオープンに使える学びの場」
- ・ 「古都鎌倉を象徴し、市民も観光客も学びに訪れる」

- ・ 「子どもからお年寄り、外国人までが鎌倉や日本の歴史を気軽に学ぶ場所。ハードだけでなく、社会教育関連の活動（ソフト）が日常的にある」
- ・ 「図書館、集会室、研修室などの総合的な社会教育機能がある場」



グループごとに対話



カードを使って対話



途中で事例を紹介

### 3. 観光客をもてなす機能

「うらかま（裏鎌）」：鎌倉通のリピーターが訪れる

- ・ 「鎌倉に滞在する、鎌倉に住まう、鎌倉で暮らすことをイメージさせる場」
- ・ 「生活者と来訪者の接点となる場」

観光客がほっとできる場所

- ・ 「鎌倉駅東口側より静かであることを活かす」
- ・ 「休憩場所や座る場所：BENCH PARK」

観光客のための機能

- ・ 「歴史都市鎌倉をPRし、中世から近代、そして現代の鎌倉の魅力を伝える場」
- ・ 「鎌倉の食を発信する美味しい食堂」
- ・ 「地場産品即売などの産業振興機能」
- ・ 「文化体験ができる宿泊施設」



意見をまとめたシート



グループごとに発表



発表後、全体で意見交換

### ■今後の進め方

今回の協働・拡張ワークショップを含め、これまでに行われた3回の市民対話で得られた市民の皆さまの本庁舎への考え方やアイデアは、残り2回の市民対話を通じて「（仮称）市民の想い」としてまとめていく予定です。これは鎌倉市本庁舎整備方針策定委員会等にも共有され、本庁舎整備を進めるうえでの大切な参考資料になります。